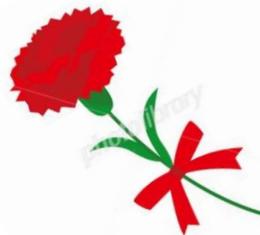


## 大会挨拶



本日は第42回にいぎ母親大会にご参加下さいまして誠にありがとうございます。

分科会はいかがだったでしょうか？

有意義な話し合いができたでしょうか？

母親大会は、広島、長崎に続いてビキニ環礁での水爆実験の死の灰を浴びた第五福竜丸の被害を経験した日本の母親が、人類と共存できない核兵器の廃絶を願って「生命を生み出す母親は…」のスローガンのもと世界母親大会を実現させましたが、軍事国家のもとでは継続することができず、憲法で戦争放棄を決めた日本だけが日本大会、県大会、地域で今日まで続けてこられました。

新座母親大会は保育所を作らせる、学童を充実させる、学校給食センター化を阻止するなど運動を進めてきました。参加団体の運動も活発で様々な成果を上げています。

しかし国政に目を向ければ今年の9月19日憲法を無視し、国会を無視し、何より国民の声に耳を傾けようとしない安倍政権によって戦争法が強行採択され、戦争のできる国、積極的に戦地へ自衛隊派遣する事態になってしまいました。

戦後71年間他国の人を殺すことなく、殺されることもなく来られたのは、世界に輝く日本国憲法を守ってきた日本国民の努力のたまものです。なんとしても憲法違反の戦争法をなくすためにあきらめることなく声を上げていきたいものです。

原発の問題もあります。安心安全安価という宣伝文句にだまされてこの狭い日本に53基もの原発が造られてしまっていました。

福島第一原発事故によって私たちは改めて核の恐ろしさを実感させられました。5年半を経た現在も、首相のいう終息とはほど遠く、故郷へ帰れない方々、仮設住宅で不自由な生活を余儀なくされている人々の思いを踏みにじるかのように原発再稼働を進めようとする政府、それどころか海外まで原発を売り歩く首相。

福島第一原発の処理に11兆円以上、他の原発の廃炉にも数兆円かかるといい、核のゴミの処理にはめどが立たず費用がどこまで膨らむか上限が見えない有様です。

高レベル放射性廃棄物は、数万年に及ぶ長期の管理が必要なため各国とも処分に頭を悩ませているのが現状です。ドイツでは福島事故後速やかに原発をやめる決断をしました。見事だと思えます。人類を守るため、地球を守るためにも強く声を上げ意思表示をしようではありませんか。

第42回新座母親大会実行委員会代表 市瀬長子